

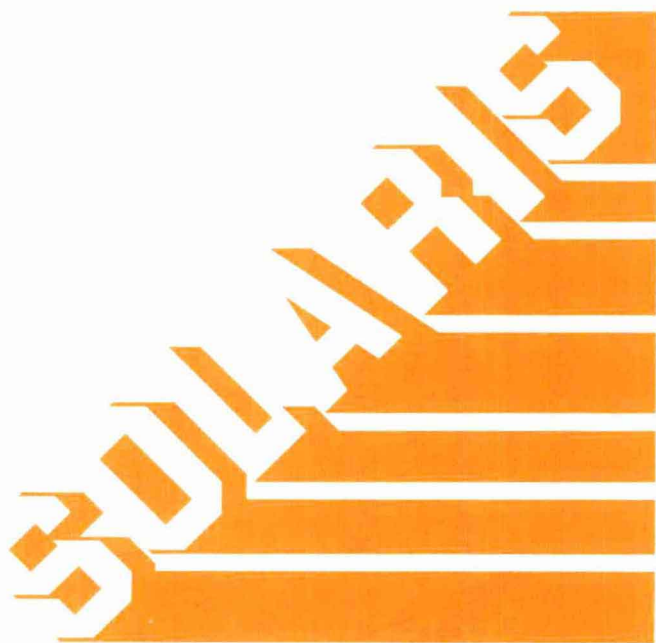
標準 學習活用事典

社会Ⅱ 歴史



標準 學習活用事典

4 社会Ⅱ 歴史



はしがき

私たちが一日一日と成長し、進歩していくように、この世の中も、たえず進歩し、発展していきます。蒸気力が産業に利用されるようになったのは、いまから二〇〇年ほど前のことです。やがて、蒸気にかわって電気の力が利用されるようになり、さらにいまでは、原子力が使われるようになっていきます。さらに宇宙にまで人間の力がおよび、月に人の足あとがきざみこまれ、世界の大ニュースはたちどころに衛星中継で家庭のテレビに映しだされるまでに、科学技術は発達しました。世の中はどんどん進歩しているのです。

しかし、世の中の進歩とは、こういう文明の発達だけではありません。社会生活のしかたにも進歩があり、発展があるのです。たとえば、むかしは、同じ人間どうしでありながら、おさめる人が、おさめられる大ぜいの人々をおさえつけていました。けれども、いまでは、人々がおたがいに、人間としての権利を尊重するということが、はっきり憲法にきめられています。このことも、世の中のすばらしい進歩の一つです。

また、人間としての権利を重んじ、ひとりひとりの権利を守るために、いまでは、世の中の人々ができるだけ多くの力を合わせ

るというようになっていきます。しかし、むかしはそうではありませんでした。むかしは、国家はあっても、それは君主や政治を動かす人たちの、つごうや考えを中心にした国家だったのです。

少数の人の利益のためでなく、国民全部の権利と幸福が守られるように世の中がかわっていくことが、社会の進歩であり、発展です。人間の歴史というのは、社会がこのように進歩してきたすじ道でもあるのです。しかし、文明の進みが、かえって人間の生命や社会生活の健康と安全をさまたげること、公害問題でわかる通りであります。それをむじゅんなく、うまく調和させるのが政治のしごとです。

社会の進歩のために、政治や経済は、どのようにかわっていかなければならないか。社会の進歩と私たちの毎日のくらしとは、どんな関係があるのか。文化は、社会の進歩とどんなつながりかたをしているか。そうして、日本人はどのように特徴のある文化を生みだし、いまにのこしているか。これらのことをふりかえてみるのが、歴史の勉強です。そして、この勉強を、私たちが、これからの歴史をきずきあげていくのに、おおいに役にたてましょう。



この巻をつくった人たち

(それぞれ五十音順に配列)



原稿執筆ならびに編集を指導した人たち

東京都立小山台高等学校教諭

飯田 国雄

明星学園小・中学校校長

依田 好照

株式会社K2代表

植山 芳弘

東京都足立区立古千谷小学校教頭

斎藤 雄三

東京都立大学付属高等学校教諭

中里 裕司

東京都立両国高等学校教諭

原口 幸男

法政大学第二高等学校教諭

吉村 徳蔵

もとなる原稿や資料をいただいた人たち

成城大学学長

安藤 良雄

京都大学名誉教授

井上 清

千葉大学教授

宇野 俊一

国立国会図書館

大久保利謙

国学院大学講師

奥野 高広

お茶の水大学名誉教授

尾鍋 輝彦

立正大学教授

北島 正元

国学院大学名誉教授

桑田 忠親

学習院大学名誉教授

児玉 幸多

東京大学助教授

笹山 晴生

名古屋大学名誉教授

信夫 清三郎

元東京大学教授

竹内 理三

名古屋女子大学高校講師

都島 昌義

歴史家

奈良本 辰也

東京教育大学名誉教授

芳賀 幸四郎

国学院大学名誉教授

樋口 清之

学習院大学教授

黛 弘道

日本大学教授

村井 益男

駒沢大学教授

箭内 健次

関西大学教授

横田 健一

歴史家

吉田 小五郎

青山学院大学教授

吉田 章一郎

駒沢大学教授

吉田 常吉

装丁／吉田 誠

AD／桑原盛行

この事典の使い方

■ やくそく

この巻は小学校・中学校で学習する日本の歴史と、中学校で新たにくわわる世界の歴史をまとめてあります。また教科書にでてくるおもな人物については、とくに学習人名事典をもうけています。

〈年代〉は、世界じゅうで使われている西暦を用いてあります。

西暦年代のすぐ次のかつこの中には、原則として、日本の年号が書いてあります。

(↓ ページ) かつこの中の矢じるしは、その項目と関係の深いページをしめすものですから、ぜひ参照してください。

■ 教科書クイズ

このクイズはテストとちがって、教科書にでてくることがから、すこし発展した内容のものをえらんで、楽しめるように工夫してあります。クイズをといたら、さらに本文にアタックしましょう。

■ 年表

年表は、日本歴史のおもなできごとを中心に、世界のおもなできごとともつづくわえ、日本と世界がくらべられるようにしてあります。だいたいなことがらは、本文にもどって調べることができるように、参照ページ数をしめしてあります。

■ 学習人名事典

小・中学校の教科書にとりあげられている重要な人名はすべてとりあげて、解説してあります。使いやすいように、いちばんさいごから、五〇音順に配列してあります。うしろの表紙をめくって、調べたい人をさがしてください。教科書には書いてない、その人物にまつわるお話ものっています。

■ チャレンジテスト

チャレンジテストは、小学校の高学年から中学校までの範囲で出題してあります。問題は、基本的なものにしばってあります。学校のテストの前には、かならずチャレンジしましょう。

写真提供

石川県美術館 共同通信 京都国立博物館
神戸市立博物館 高野山文化財保存会 国立
歴史民俗博物館 埼玉県立さきたま資料館
静岡市立登呂博物館 水産航空 大東急記念
文庫 中国通信 東京国立博物館 徳川黎明
会 ワールドフォト・サービス 学研企画資

料部ほか

図版・イラスト作成

石津博典 近藤正昭
玉木図版 つがる団平
ムネプロ ユニオンブラン

編集

総括

杉山茂生
山田昌行

斎藤正憲
村岡隆夫

岡田隆
降幡和利

A D

編集協力

K²

白石雄一

造本管理



もくじ

第4巻

社会II

歴史

黒文字は小学校でも中学校でも学習する内容をしめす
色文字は中学校で学習する内容をしめす



文明のおこりと古代の世界

人類の発生と進化
先史時代の生活と社会

生活の進歩

社会のしくみ

四大文明の発生

オリエント

古代エジプト

古代メソポタミア

インド

古代インド文明のおこり

仏教のおこり

仏教の発展

ヒンズー教

中国

中国文明

秦と漢

ギリシアとローマ

ギリシア

17 18 19 19 21 22 24 24 24 24 27 27 28 28 29 29 30 32 32

ギリシア文化

ヘレニズム時代

ローマ帝国とキリスト教

日本のあけぼのと古代国家の成立

日本のあけぼの

日本列島の誕生

日本人の祖先

無土器時代

縄文時代

縄文人の暮らし

農耕生活のはじまり

弥生時代

米づくりがつたわる

人々の生活

弥生式土器

弥生時代の人々と米づくり

金属器

身分のちがい

「むら」から「くに」へ

33 34 35 37 38 38 39 39 40 42 44 44 44 45 46 48 50 51 52



大きくなるむら	52
なぞの邪馬台国	52
大和朝廷	54
大和朝廷の統一	54
朝鮮と日本	54
大和の国	56
天皇と豪族の墓—古墳	58
大陸から渡来した人々や文物	60
大和朝廷の動き	62
豪族の争い	62
聖徳太子が摂政になる	63
聖徳太子	64
太子の対外政策と遣隋使	64
隋・唐と新羅	65
聖徳太子の政治	66
大化の改新	68
天皇のあとつぎ争い	68
改新の政治とその動き	68
律令による政治	69
飛鳥・白鳳の文化	71
飛鳥文化	71
法隆寺	72
白鳳文化	72
〈東西文化の交流路—絹の道(シルクロード)—〉	74

奈良・平安の都と貴族の政治

奈良の都

平城京

貴族のくらしと特権

くずれる公地公民制と地方のようす

墾田の私有をみとめる

農民の負担とくらし

都からはなれた地方

奈良時代の交通

東大寺と国分寺

聖武・光明と国分寺

大仏と大仏殿の造営

遣唐使と天平文化

律令政治のゆらぎ

遣唐使船

天平のいらか

天平の仏教文化

古事記・日本書紀と万葉集

〈日本の神話〉

平安の都

平安京

平安初期の政治改革

広がる国土

平安初期の文化

貴族の政治

さかえる藤原氏

摂関政治



莊園

武士のおこりと成長

武士のおこり

勢力をのばす武士

院政

保元・平治の乱

平氏の政權

源平の戦い

アジアの動きとイスラムの繁栄

東アジアの動き

イスラム帝国

日本風の文化

遣唐使の廃止と日本風の文化

宗教と建築・彫刻

平安時代の生活文化

鎌倉・室町幕府と武士の政治

武家政治のはじまり

源頼朝と源義経

鎌倉幕府のしくみ

源氏がほろびる

北条氏の勢い

鎌倉時代の武士と農民

主従のつながり

武士の生活

農業技術の進歩と農民のくらし

市と手工業の発達

鎌倉時代の文化

力強い武士の文化

軍記物と歌集・随筆

新しい仏教

元との戦い

モンゴル人の帝国

文永・弘安の役―元寇

おとろえる鎌倉幕府

建武の新政と南北朝

鎌倉幕府がほろびる

建武の新政

南朝と北朝

室町幕府と応仁の乱

室町幕府

応仁の乱

室町時代の文化

北山文化と金閣

東山文化と銀閣

室町時代の産業の発達

115 113 112 111 110 109 108 107 106 106 105 104 104 102 101 100 100 99 98 98 97

138 135 134 134 133 130 130 129 128 127 127 126 124 124 122 120 120 120 118 118 116 115

農業の発達
手工業と商業の発達
都市の発達

ヨーロッパ世界の展開

ヨーロッパ中世

ヨーロッパの成立

中世の社会と文化

十字軍の遠征

中世末のヨーロッパ各国

ルネサンス

イタリアのルネサンス

北方のルネサンス

科学の芽ばえ

宗教改革

宗教改革のおこり

宗教改革の成功

各国の宗教改革

カトリック教会の反省

大航海時代と植民地経営

新航路の発見

香料と銀とどれい

アメリカの古代文明

140 138 138

141

142 142

143 143

144 144

145 145

146 146

148 148

150 150

151 151

152 152

152 152

153 153

153 153

154 154

154 154

156 156

158

戦国大名と天下統一

戦国の世

力をのばす農民と町衆

自治の町・界

さかな一揆

戦国大名と領国の統制

争う戦国大名

ヨーロッパ人の来航

黄金の国ジパングへのあこがれ

鉄砲とキリスト教の伝来

天下の統一

織田信長の統一

豊臣秀吉の統一

検地と刀狩

秀吉の外交

キリスト教の広まり

産業の発達

安土桃山時代の文化

城の文化

南蛮文化

生活文化の発達

159

160 160

161 161

162 162

164 164

165 165

167 167

167 167

168 168

170 170

170 170

172 172

173 173

174 174

175 175

176 176

178 178

178 178

179 179

180



江戸幕府の成立と幕府政治の動き

江戸幕府

徳川家康

江戸幕府の政治

幕府と大名

身分の差別

農村と農民

農村のようす

農民のくらし

鎖国

外国貿易とキリスト教

島原の乱

鎖国

太平の世の中

幕府と儒学

文治政治

交通の発達

元禄文化

強まる町人の力

商業の発達と町人

江戸と大阪

産業の発達

進む農業

209 209 207 205 205 203 200 198 196 196 195 193 191 191 190 189 189 188 186 184 182 182 181

手工業と鉱業

ゆらぐ武家政治と化政文化

徳川吉宗と享保の改革

つづく百姓一揆

寛政の改革

さかえる江戸の文化

天保のききんと天保の改革

諸藩の改革

新しい動き

国学と洋学

近づく外国船

新しい考え

ヨーロッパ諸国の近代化とアジア進出

中央集権の発達

イギリスの国王と議会

フランスのブルボン王朝

ドイツの分れつ

ロシア帝国

一七一一八世紀のヨーロッパ文化

アメリカの独立

一三州の人々

独立後のアメリカ

229 228 228 227 226 226 225 224 224 223 222 220 219 219 218 217 215 214 213 212 212 210

フランス革命とナポレオン

革命の原因

革命がおこる

ナポレオン

産業革命

イギリスの産業革命

産業革命の結果

一九世紀のヨーロッパとアメリカ

自由と独立をもとめて

国民国家の発展

一九世紀のアメリカ

アメリカ南北戦争

一九世紀の文化

市民の文化

科学の世紀

せまくなる世界

アジアの植民地化

中国の半植民地化

インドと東南アジアの植民地化

近代日本の成立とアジア

開国

ペリーの来航

開国

安政の大獄

幕府のおとろえ

大政奉還

尊王攘夷

長州征討

王政復古

明治維新

明治政府

新しい政治

富国強兵

西南戦争

文明開化

教育の広まり

交通・通信の発達

新しい生活

議会政治への歩み

自由平等

自由民権運動

政党のおこり

明治憲法と帝国議会

憲法をつくる用意

大日本帝国憲法

246

248

248

249

249

250

250

252

252

252

254

256

258

258

259

261

263

263

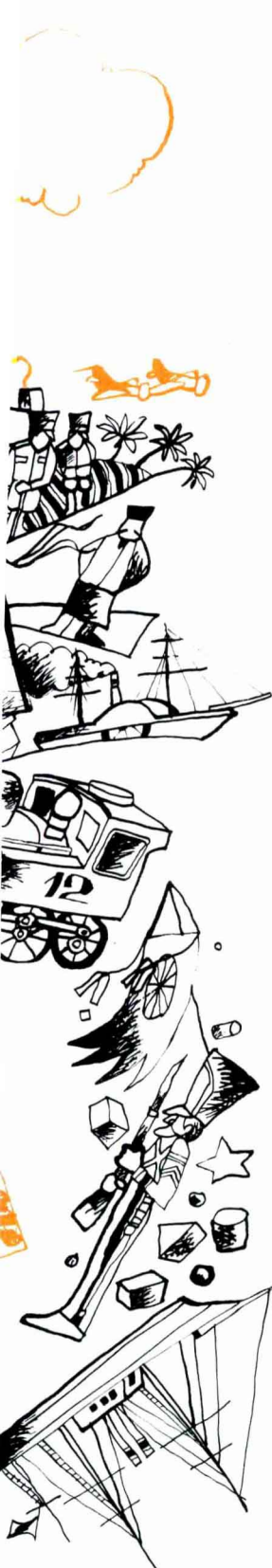
264

265

268

268

269



教育勅語	271
帝国議会	272
議会政治と政党	273
のびる国力	274
日清戦争	274
にらみ合う世界	276
強国の争い	276
アフリカの分割	278
アジアのありさま	278
日露戦争	280
満州への進出	282
韓国併合	282
中華民国の成立	283
条約改正の歩み	284
近代産業の発達	286
産業革命	286
資本家と労働者	288
明治の文化	290
近代文学	290
美術と音楽	291
学問と宗教	292



二度の世界大戦

第一次世界大戦とその後の世界

第一次世界大戦

大戦終わる

平和への努力

大戦後のアメリカ・ヨーロッパ

社会主義国家の建設

アジアの民族運動

第一次世界大戦後の日本の社会

好景気から不景気へ

民主主義の広まり

政党政治

独裁政治と軍国主義

世界をおそう不景気

広がる軍国主義

強まる軍部の力

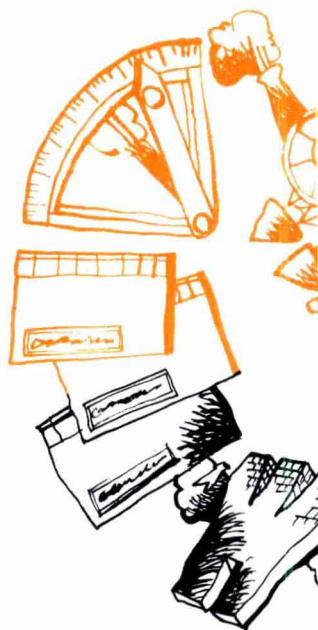
日本をおそう不景気

軍部と政党

日本と中国

満州事変

軍部と国家主義者



第二次世界大戦

日中戦争

第二次世界大戦

太平洋戦争

太平洋戦争と国民のくらし

戦後の日本と現代の世界

民主国家の建設

軍国主義の追放

日本の民主化政策

戦後の国民生活

戦後当初の文化

戦後の世界の動き

二つの世界

アジア・アフリカの動き

中国・朝鮮の動き

日本の復興と国際復帰

平和条約と日米安保条約

日本の国際復帰

平和共存への動きと日本の経済高度成長

激動する世界の動き

安保体制と経済高度成長

世界の中の日本

変化する国際関係
現在の日本の動きと課題

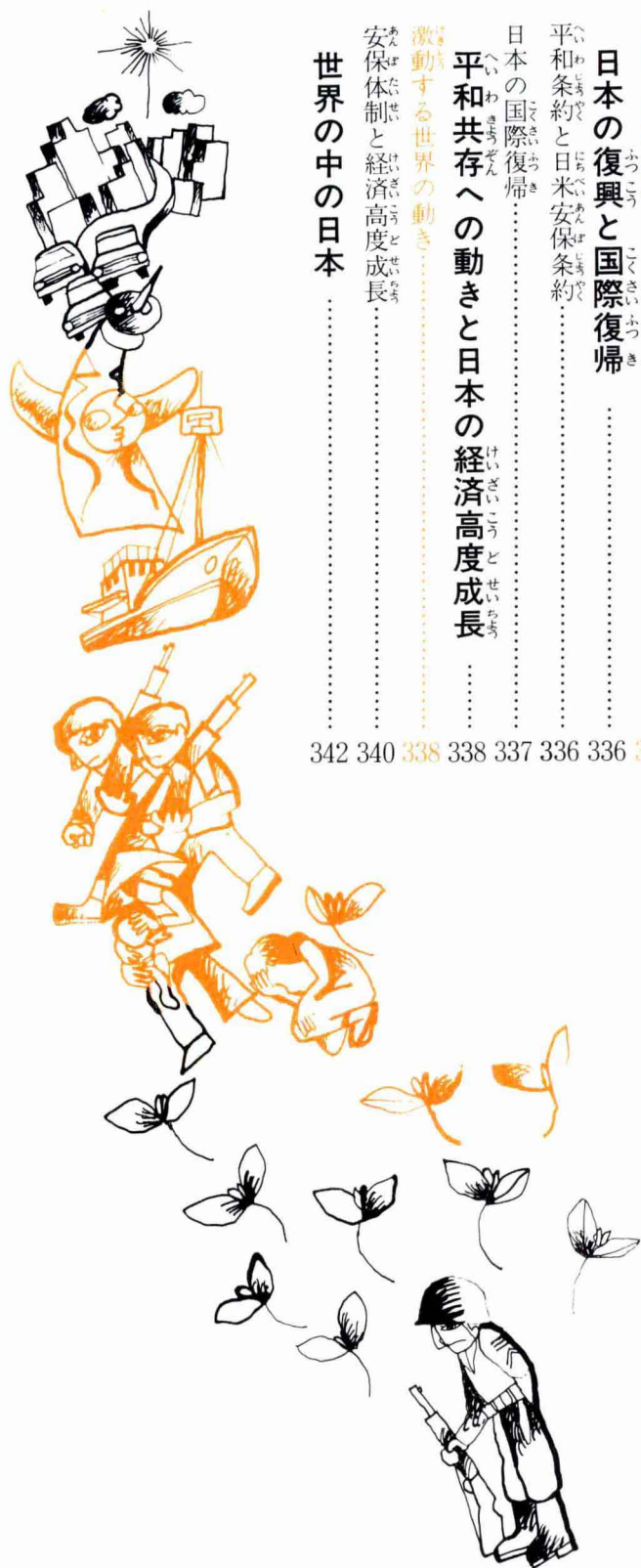
教科書クイズ

日本と世界の歴史年表

チャレンジテスト

さくいん

学習人名事典



318 319 321 322 327 328 328 329 331 332 333 334 335 336 336 337 338 340 342

342 343 13 345 357 376 432

教科書クイズ

問題1 大男のゴミすて場

縄文時代の日本人は山や野では動物を、海べでは魚や貝などをとってくらした。当時の人が食べた貝がらなどをすてた場所が貝塚だ。貝塚は、海からはなれた場所にもこのつていて「大男のゴミすて場」手長明神が長い手で海から貝をとった」などの伝説が生まれた。では、なぜ海からかなりはなれた場所にも貝塚があるのでしょうか。

- ア () その後、海面が変化し、
陸地がひろがった。
- イ () 海から貝をはこんだ。
- ウ () 山のえものと海の貝を交
かんして食べた。



問題2 女王卑弥呼について書いた本

ある書物に、「三世紀の前半のころ、日本には邪馬台国という国があり、卑弥呼という女王がいて、三〇余りの小国をしたがえていた」というようなことが書かれている。

- では、この書物の名はなんというのでしょうか。
- ア () 日本の皇室の歴史を記している「日本書紀」。
- イ () 当時の中国の歴史を書いた「魏志倭人伝」。
- ウ () 当時中国に来ていたイタ
リアの商人マルコ・ポー
ロの書いた「東方見聞録」。



問題3 「日本」という国名

「日本」という名が使われたのは、聖徳太子のすこしあとからのようです。それまで日本は「倭」とよばれていた。では、なぜ日本という国名でよばれるようになったのでしょうか。

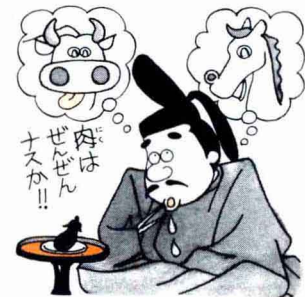
- ア () ヨーロッパなどでは、ヤポン、ジャパンなどというところからニホンが生まれたと考えられる。
- イ () 聖徳太子が中国の皇帝に送った手紙「日が出る国の天子が、日のしずむ国の天子に……」から生まれた。
- ウ () むかしから、日本人がじぶんたちの国を「ニホン」「ニッポン」とよびならわしていた。



問題4 貴族の食卓

奈良・平安時代の貴族の食事は、朝一〇時ころと夕方四時ころの一日二回だった。ナスなどが日本に伝来したころだったが、当時は牛や馬の肉はまだ食卓にのぼっていない。なぜでしょうか。

- ア () そのころの日本には、まだ牛や馬がいなかった。
- イ () 牛や馬の数が少なく、食物にはできなかった。
- ウ () 仏教の教えなどから食物にできなかった。

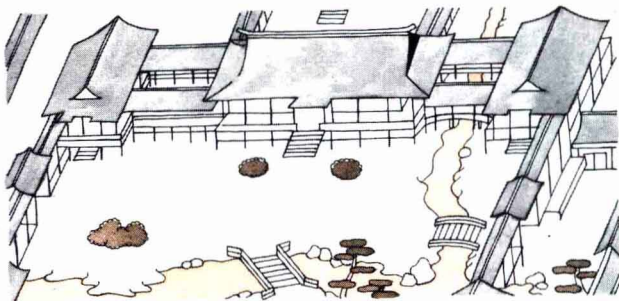


問題5 貴族のトイレ

下の絵は、平安貴族の住んだ寝殿造り。〃なんとすばらしい〃とうらやむことはない。貴族のすべてが住めたわけではないし、四方あけっぱなしのすまいでは、冬の生活は寒くてガタガタふるえていたにちがいない。そしてトイレがない。なぜなら、かれらは皮籠という携帯用トイレをもち、それで用を足していたからだ。

ところで、このころ、へやとへやはなんでしきってあったでしょうか。

- ア () いまと同じように、しゅうじやふすまやかべ。
 イ () びょうぶやついたてやすだれのようなもの。
 ウ () 板の戸でしきってあった。



問題6 やあやあ、われこそは……

鎌倉武士の戦いは、「やあやあ、われこそは……」と敵味方がたがいによびかけての一騎うち。ところが、元の大軍が日本にせめてきたとき、元軍は、太鼓・かねを打ちならし、ときの声をあげ、集団でせめてきた。そのうえ、てっほう(てっほう)という武器からは火の玉がとんできた。なにかもはじめてなので、勇敢な鎌倉武士もびっくりしたという。

では、この元との戦いは、のちになんとよばれましたか。

- ア () 承久の乱
 イ () 文永の役・弘安の役
 ウ () 応仁の乱



問題7 お茶をのむ会

茶は、奈良時代ごろからのみはじめられたといわれている。このころお茶はお寺でつくり、薬のようにのんだらしい。鎌倉時代に茶をのむならわしがおこってきたが、これも薬として、または眠気ざまし用などに使われたといわれる。室町時代は茶の産地が広がり、茶をのむ会がたびたび開かれるようになった。茶の会では、茶の品種や産地をいいあてる遊びが流行したという。

では、このような茶会が、つぎのどれに発展したのでしょうか。

- ア () 茶室で静かに茶をたのしむ茶の湯になっていく。
 イ () 喫茶店のように店を開いてお茶屋になっていく。
 ウ () 茶の味を調べ、ねだんをきめる市場へと発展する。

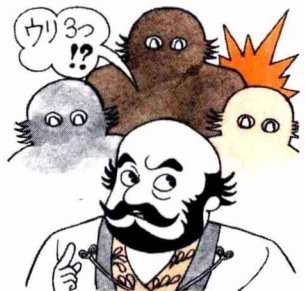


問題8 影武者の役わり

戦国武将は、よく影武者を用意していた。もつとも名高いのは甲斐の虎といわれた武田信玄の影武者で、三人いたという。信玄の弟の信廉、家来の小笠原源与斎、金丸虎義の三人で、この影武者は、信玄と顔や体格がにているだけではなく、いつも同じような服装をしていたという。

では、戦国武将が影武者をなん人もおいたのはなぜでしょう。

- ア () 敵の目をだまし、主人が万一の場合に身がわりに。
 イ () 主人にかわり病気をひきうけるという迷信から。
 ウ () 主人は城にいて、影武者が戦場にでかけた。



問題 9 東海道五十三次

江戸時代には、各地から大名行列が江戸と国もの間を往復するようになり、道路がととのい陸の交通はますますさかんになった。江戸日本橋を出発点とした東海道・中山道・日光・奥州・甲州の五街道は当時の幹線道路。とくに江戸と京都をむすぶ東海道は、もっともたいせつな道路で人馬の行き来もはげしかった。江戸日本橋から京都三条大橋までおよそ五〇〇キロの街道に五三の宿場があつて、人足と馬をつねに準備していた。

さて、この東海道を歩いて旅する人（おとな・男）がいた。江戸から京都までいったいく日かかったでしょう。

- ア () 一三―一五日くらい
- イ () 一八―二〇日くらい
- ウ () 六―七日くらい

問題 10 橋をかけない川

江戸時代の旅の難所は、通行手形がないと通してもらえない関所と川のわたし。東海道の道すじでぶつかる大きな川には、ほとんど橋がかかっていない。富士川や天竜川にはわたし船があつたが、安倍川や大井川は人足にかつがれたりしてわたつた。そしていったん大雨がふれば増水で川止めになつてしまった。

では、なぜ川に橋がなかったのでしょうか。

- ア () 橋をつくるにはたいへんな費用がかかるため。
- イ () わたし船の船頭や川人足が橋づくりに反対した。
- ウ () 戦いのときの敵や犯罪人が利用するのをふせく。



問題 11 百石どりの武士のサラリー

徳川直参（旗本や御家人）といえ、ふつうの武士とは身分がちがい、いばつていたが、どれくらいのサラリーをもらつていたか。百石どりの武士を例にしてみよう。百石どりといっても、百石まるまるもらえるわけではない。収穫量百石のうち、六割が農民、四割が武士がとるようになってる。つまり、四〇石が武士の収入。いまのお金だと、米一〇キロ三〇〇〇円として四〇石では約一八〇万円、月に一五万円のサラリーだ。このため、「武士は食わねど高楊枝」といわれたりした。

さて、この「武士は食わねど高楊枝」とはどういうことですか。

- ア () 楊枝をくわえいばつてる。
- イ () 仕事もしないでたくさん米をもらつてる。
- ウ () ひもじいのに、満腹のようすをしている。



問題 12 江戸時代の人口

一八七二（明治五）年の調べでは、日本の人口は約三三〇〇万人、それから百年たつた現在の人口は約四倍にふえて一億一〇〇〇万人にふくれあがつた。ところが江戸時代は三〇〇〇万人と推定され、約二五〇年間ほとんどふえることはなかった。

どうしてでしょうか。

- ア () 日本のあちこちで戦いがあり、死ぬ人が多かった。
- イ () 凶作や飢饉のために多くの人が死んだ。
- ウ () まずしいくらしのため、子どもが生まれなかった。



問題13 かえらぬ二五人の日本人

イギリスの貨物船ノルマントン号は、一八八六（明治一九）年の秋、紀伊半島の沖でちんぼつした。船長と二五人のイギリス人水夫はいちはやくボートでにげ命びろいをしたが、二五人の日本人乗客は全員とりのこされて水死した。この事件を日本は裁判できなかった。そこで、イギリスが裁判し、船長を軽い罪にしたらで、水死した人には一銭のばいしもうもしなかった。

当時どうして日本が裁判できなかったのでしょうか。

ア（ ）日本にはまだ裁判所がな

く裁判官もいなかった。

イ（ ）イギリスの船の事件なの

でイギリスで裁判した。

ウ（ ）条約で外国人を日本の法

律で裁判できなかった。



問題14 成金の時代

成金とは、いふうぎで弱い歩が敵陣にはいつて強い金になることをいうが、第一次世界大戦で大もうけした人を成金とよぶことがはやった。これら成金の中には、ばかばかしいぜいたくをする者もいた。料理屋でタイをやかせるのに、おさつをほうりだしてそれでタイをやかせたというような話が数多くつたえられている。では、どうしてかれらは大もうけができたのでしょうか。

ア（ ）戦争に勝ち領土をもらっ

イ（ ）連合国、東南アジア、ア

フリカなどから品物の注

文がたいへんふえた。

ウ（ ）日本は戦争にくわわらな

いため、お金があまった。



問題15 戦争（太平洋戦争）中のくらし



右の絵からどんなくらしだったといえそうですか。

ア（ ）元気にはたらいた生活 ①（ ）くるしい生活

ウ（ ）ひきしまった、たのしい生活

問題16 トイ・ペット（おもちゃの自動車）

一九五七（昭和三二年）トヨペットをはじめアメリカに輸出したときのこと。その車がたちまち高速道路で故障、口の悪いアメリカ人がトイ・ペット（おもちゃの自動車）といい大笑した。

しかし、いまや日本は世界一の自動車生産国となった。

では、なぜ日本は世界一の自動車生産国になったのでしょうか。

ア（ ）輸出のために努力した。

イ（ ）仲のよい国々がふえ、輸

入をふやしてくれた。

ウ（ ）技術をみがいて、性能の



解答

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 問題1 ⑦ | 問題2 ① | 問題3 ① | 問題4 ⑦ | 問題5 ① | 問題6 ① |
| 問題7 ⑦ | 問題8 ⑦ | 問題9 ⑦ | 問題10 ⑦ | 問題11 ⑦ | 問題12 ① |
| 問題13 ⑦ | 問題14 ① | 問題15 ① | 問題16 ⑦ | | |